

# 花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. **03**  
令和4年12月7日号



日時：令和4年12月7日（水）  
9：00～12：20  
場所：馬見丘陵公園  
ボランティアハウス  
参加者：23人

9：00～9：05 全体説明  
9：05～9：30 振り返り講座  
9：30～10：00 講義：ワークショップ  
の企画・運営について  
10：05～10：15 休憩  
10：15～11：15 コキア箒作り  
11：15～12：20 オーナメント作り  
アンケート、後片付け

今回のワークショップでは振り返り講座（秋花壇の振り返り・冬花壇の手入れ）、ワークショップの企画・運営についての講義、クリスマスウィーク期間中の展示に向けたコキアの箒作り・オーナメント作りを行いました。

## 振り返り講座：秋花壇、冬花壇の手入れ

振り返り講座では、秋に作成したボーダー花壇を振り返りました。花壇の現況を確認し、花の手入れや除草・撤去の見極めなど、冬の花壇の維持管理方法について学びました。冬は花が少なくなる時期です。冬の花壇の維持管理は「いかに枯死植物を除去していくか」という視点を持って手入れを行うようにしましょう。基本的には枯れた部分の摘芯や雑草の除去などです。腐葉土でマルチングすることで根の防寒だけでなく見た目も良くなります。12/7時点のボーダー花壇の状態に対して、手入れの例として以下の点を紹介いたします。

写真1：ブルーサルビアの根元に注目すると、新芽が出てきています。新芽の少し上で剪定しましょう。

写真2：エキナセアの花の中に枯れた花があります。元気な花に影響しないよう、摘芯しましょう。

写真3：カレックスの元気な葉は残し、枯れた葉のみ根元で切ってキレイに除去しましょう。



▲写真1：ブルーサルビアの切り戻し位置



▲写真2：枯れたエキナセアの花摘芯



▲写真3：枯れたカレックスの葉っぱの除去



## 講義：ワークショップの企画・運営について

今年5月に開催した講習イベント「球根の堀上げ作業体験」で花サポーターの皆さんにワークショップの運営側で活動していただいた際に、参加した方々からとても好評なご意見をいただきました。

今後、少しずつそのような活躍の場が増え、花サポーターの皆さんがワークショップを企画・運営する立場になることを想定して、準備や考え方など知っておくとよい情報について講義を行いました。

### ◆ワークショップの流れ◆

WSの企画運営を考える際、大きく3つの項目について整理し、それぞれ詳細事項を決めていきます。

企画準備	当日運営	フィードバック
どんなワークショップをやりたいか、コンテンツ、スケジュール、当日運営マニュアル（当日のスムーズな運営を行うためのマニュアル）などを考えます。	天候や会場設備の確認、トラブル対応、アンケートの実施等について、当日起こりうる様々な出来事を想定しながら、運営の手順を考えます。	実施したワークショップを振り返り、実施した内容・出来事などを整理し、良かった点や悪かった点、アンケートの分析を行います。

企画準備→当日運営→フィードバックの一連の流れを繰り返し行い、継続的な改良を加えることで、質のよいワークショップを開催することが出来ます。

### ◆ワークショップの募集チラシを作成する◆

ワークショップを開催する際、告知する方法として募集チラシを作成します。募集チラシなど来園者の方向けに資料を配布する際に心がけることや注意点などについて、下図の募集チラシを例として説明を行いました。



馬見丘陵公園で育ったコキアを使って

## ミニぼうきを作ろう

普段、馬見丘陵公園内で花の管理等のボランティア活動を行っている花サポーターと一緒にぼうきを作るワークショップです。

日時：2022年12月7日 9：00～12：00

会場：馬見丘陵公園 研修室

講師：花サポーター

定員：先着20名（要予約）

参加費：¥〇〇（材料費）

応募方法はホームページをご覧ください

馬見丘陵公園 ワークショップ

奈良県中和公園事務所

☎0745-56-3851

受付時間 00：00～00：00

〒636-0062 北葛城郡河合町佐味田 2202



※天候及び新型コロナウイルスの感染拡大状況により、イベントを中止する場合がございます。詳しくはホームページをご覧ください。

▲配布物：ワークショップの募集チラシ例（実物はA4サイズ）

### ◆掲載が必要な情報◆



- ①タイトル
- ②補足説明
- ③イメージ写真/イラスト
- ④ワークショップの詳細
- ⑤連絡先/主催者情報
- ⑥アクセス
- ⑦注意書き

### ◆配布資料を作成する際に心がけること◆

1. 文字は大きくしましょう。（11ポイント以上）
  2. 単純な文章
  3. 著作権を侵害しないよう、写真やイラストを参照する際は、使用許可を取る/著作権フリーの素材を使用しましょう。
- ※自分たちの活動写真を使用する際も、使用しても良いかを事前に確認するようにしましょう。
- ※普段写真を撮る際も、後々チラシやHP掲載等に使いやすいように、人の顔が映らないようにする、後ろ姿を撮るなど撮影方法を工夫しましょう。

# コキアの箒作り

花サポーターの皆さんが実際に運営するワークショップを想定して、コキアの箒作りを行いました。箒作りを通して「ワークショップの企画・運営について」も併せて知るため、箒の作り方の説明を聞く際、「自分だったらこんな説明の方が分かりやすいな」とか、「ここまで準備しておいた方が参加者に親切だな」など、『自分たちが開催する立場』を想像しながら作業に取り組みました。

## ◆作り方を参考に、自由に箒づくり◆

植物を使ってものづくりをする場合、個体差があるので1つとして同じものは出来ません。加えて、使用する紐の種類、結び方、組み合わせ方の違いや完成した後の装飾のアレンジなどサポーターさんたちの様々な工夫で、より個性的な箒が出来上がりました。制作した箒たちは「馬見クリスマスウィーク」の期間中（12/21（水）～25（日））、公園館1階の中央の机に展示される予定です。

※公園館はクリスマスウィーク期間も17時に閉館します。



▲コキアを確認する



▲コキアを切り分ける様子



▲コキアを束ねた後、装飾を施す様子



▲完成したコキアの箒

# ミニぼうきを作ろう

## 準備するもの

- コキア：1束（種を落としたもの）
- 刺繍糸：1束
- 剪定はさみ：コキアをざっくり切れるもの
- 工作はさみ：糸や紐を切るもの
- ゴミ袋：袋の中で作業すると片付けが楽です
- カムテープ：ゴミ袋を机に付けるためのもの
- 紐：好きな色の糸や毛糸など



1 約10本くらいを1束とし、束を5〜7つ作る。



2 1つの束に刺繍糸を5、6回ほど巻き付ける。



3 束を半分に分けて、糸を間に通して反対側へ引っ張って引き締める。



4 3で出した糸と続きから、2つ目の束に糸を巻く。



5 3束目以降も同様に巻いていき、最後の束が終わったら、糸を結ぶ。



6 持ち手部分の糸を巻く。巻き始めの糸は最後に結べるようにしておく。



7 巻き終わると、最初に残しておいた紐と一緒に固結びする。



8 ぼうきの穂先と、持ち手の先ははさみで整える。



▲配布物：コキアの箒の作り方（実物はA4サイズ）

# オーナメント作り

オーナメントとは、装飾品という意味です。今回、クリスマスウィークの箒の展示をよりクリスマスらしく彩るために、箒づくりと同日に作成しました。

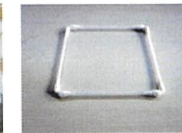
## 立方体 オーナメントを作ろう

### 準備するもの

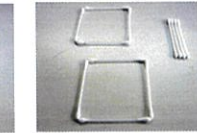
- 綿 棒：12本（予備含め20本）
  - 接着剤：1個
  - シート台紙：1枚（□、△）
  - 植物シート：A3サイズ1枚
- 馬見丘陵公園内で採取した植物乾燥させラミネートシートで挟んで作成したもの



1 植物シートと台紙を重ね合わせ、正方形を6枚切り抜く。



2 綿棒4本で正方形を作り、角を接着剤でくっつける。



3 2と同様に正方形を2つ作る。



4 2つの正方形同士を4本の綿棒でくっつけて、立方体を作る。



5 立方体の4つ角に接着剤を付け、1で切り抜いた植物シートを張り付ける。



6 5と同様に、6面に植物シートを張り付ける。【完成】

### 正四面体



1 植物シートの形、綿棒の本数を変えることで色々な正四面体を作ることが可能。



2 綿棒で三角形を作り、角を接着剤で止めて正四面体を組み立てる。



3 正四面体の各角に接着剤を付け、植物シートを張り付ける。【完成】

▲配布物：オーナメントの作り方（実物はA4サイズ）



▲切り抜いたシートを貼り付けるフレーム作り



▲作ったフレームに植物シートを貼り付ける様子



▲全ての面を貼り合わせると完成

## ◆最後に◆

今回のワークショップでは、公園内に在る植物を活用したものづくりを行いました。また、使用する当日まで試作や状態管理など、保管する場所の確保も含めて材料の保管は、準備の中でも重要な項目です。

使用する材料が自然のものであれば、そのまま使用しても危険は無いが、加工が必要かなど、参加者のことを考えて（参加者になったつもりで）段取りしなければなりません。安全に楽しく参加出来るワークショップにするには、どういったところに注意しなければならないか、どこまで準備する必要があるかなど、誰が見ても安心できるような準備があつてこそ、良いワークショップに繋がります。

自分たちがワークショップを開催する立場、目線になって考える習慣をつけると、違った見え方・発見が沢山あります。ワークショップに限らず、公園の維持管理においても、管理者と来園者の目線は違いますが、花サポーターの皆さんはその両方を兼ね備えられる存在です。普段の活動の中でもぜひ主催者目線、参加者目線をうまく使い分けて、誰もが心地よく過ごせる馬見丘陵公園を作っていきましょう！